



# 学院史編纂室便り

NO. 49 (2019.5.20)  
関西学院大学 学院史編纂室

## ★『関西学院史紀要』第25号の発行

3月15日に『関西学院史紀要』第25号を発行しました。第6号以降は「関西学院大学リポジトリ」に登録されていますが、印刷物をご希望の場合は学院史編纂室までご連絡ください(創刊号、2号、12号、13号、15号は在庫なし)。

〔論 文〕	大森啓助の生涯と作品について —《ダンス》《新生平和国家》を中心に— 戦間期関西学院における「恒久平和」運動について(中) —神崎驥一、乾精末と国際連盟協会、排日移民法、太平洋問題調査会、軍事教練—	金井 紀子 井上 琢智
〔記 録 I〕	第50回 関西学院史研究会 理学部の改組・拡充を振り返って 第51回 関西学院史研究会 カナダ・ミッション 婦人宣教師の視点から見た日加関係	篠原 彌一 松本 郁子
〔記 録 II〕	文学部記念講演 ハミル館100年の歩み 1918~2018	今田 寛
〔寄 稿〕	トロント大学留学記(1)	武田 建

## ★D. R. マッケンジーの娘の着物の寄贈

12月20日、カナダ研究客員教授として来学中のポール・ウィリアムズさんから大学博物館(河上繁樹館長)に、お祖母様が子ども時代に着用されていた着物が寄贈されました。ポールさんの曾祖父に当たる D. R. マッケンジーは、1910年にカナダのメソジスト教会が関西学院の経営に参画した時、最初に派遣された宣教師の一人で(もう一人はのちの第4代院長 C. J. L. ベーツ)、長年、関西学院の理事長を務めました。



その働きについては、「『財務長官』と呼ばれた男」(広報誌『KG TODAY』 No. 302、2019年2月)をご覧ください。さらに、ポールさんと関西学院との不思議な出会いにつきましては、本誌7頁に法学部の水戸考道教授(写真:後列左から3人目)がご紹介くださっています。

## ★関西領事団150周年記念ガラディナーの開催



2月1日、帝国ホテル大阪、孔雀の間で300名以上の出席者を集め、標記ガラディナーが盛大に開催されました。1868年1月1日、神戸港(開港時の名は「兵庫港」)が開かれると、国際貿易が始まり、神戸に外交使節団が置かれるようになりました。過去の文献によると、6カ国(デンマーク、フランス、ドイツ、アメリカ、オランダ、イギリス)の領事館がもっとも早く開設されたそうです。彼らは、国は違っても、「神戸領事団」として協力し、ビジネスを発展させ、文化交流を行いました。1959年、「神戸・大阪領事団」と改名し、1984年に「関西領事団」となりました。現在、

65カ国の領事館、名誉領事館で構成されています(団長:ラファエル・アパリシオ在神戸パナマ総領事)。国境を超え、領事団として結束し、「Bringing Kansai to the World and the World to Kansai」「関西を世界へ、世界を関西へ」をモットーに活動しています。【写真左端:石橋民生在大阪ラトビア名誉領事(大和ハウス工業株式会社代表取締役副社長)】

## ★神戸文学館企画展「モダニズムの原風景 竹中郁と原田の森」の開催

3月8日から神戸文学館(関西学院創立の地に今も残る唯一の建物)で開催されている標記企画展で、関西学院文学部出身の詩人竹中郁(1904~82)が取り上げられています。この企画展のため、学院史編纂室所蔵の同人誌や器物を貸し出しました。会期は残り僅かです(6月9日まで、水曜休館)。ぜひ足をお運びください(入場無料)。